

午後1時零分再開

○議長（浅尾静二君） 休憩前に引き続き、会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、今福勝義議員の質問を許可します。8番今福勝義議員。

（8番今福勝義君登壇）

○8番（今福勝義君） 8番議員の今福でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

私はよその県の市町村を訪問したときに、まず福岡まで約1時間、久留米まで約30分かかりますよ。それから市内にはブリヂストンのタイヤ工場、それからキリンビール工場等がございますよと朝倉市を紹介しているところでございます。

先月、兵庫県の南あわじ市を訪問しました。人口が大体約5万人だそうです。この南あわじ市には大きな企業等はなく、2つもの大企業があることに大変驚いておられました。

私も朝倉市は大きな企業、それから中小の食品工場等も多数あり、農林業地帯にしては恵まれているのかなと思っているところでございます。

現在、市内の企業の中には仕事が大変忙しく、従業員の確保が難しいと嘆いておられる会社もございます。

話は変わりますが、市内にも名前が知れ渡った食に関係する企業、それから飲食店、スーパー、コンビニ等、多数ございます。私が市役所に入りたてのところ、ある先輩が、景気がよくても悪くても人間は食べなくてはいけないので、そんなにぜいたくはできないとは思いますが、食べ物の商売が食いはぐれがないよと言っておられました。私もその話を聞いて、なるほど、そうだなと思ったところです。あれから40年たちますが、忘れないで私の頭の中の片隅に残っているところでございます。

それでは、工業団地の新設ということで質問席より質問させていただきます。

（8番今福勝義君降壇）

○議長（浅尾静二君） 8番今福勝義議員。

○8番（今福勝義君） それでは、工業団地の新設について質問をさせていただきます。

市長が言われる親と子と孫と一緒に暮らす朝倉市の実現に向けて、多くの施策があると思いますが、中でも若者の働く場の創出が重要ではないかと思っております。そのための施策として、新たな工業団地の造成を行い、企業誘致を進めることを考えていかなければならないのでは、企業進出の相談があった場合に対応できるようにすることが肝要ではないかと思っております。そのことが若者を含めた市内居住者の雇用の場がふえていくものと思っております。

平成5年に平塚工業団地ができ、その後、平成9年にも拡張計画がございましたが、何らかの理由で完成を見ないままでございます。

それでは、勉強不足で大変申しわけありませんが、工業用水の状況、それから県との補助金等のかかり合いについて教えていただきたいと思います。

○議長（浅尾静二君） 水道課長。

○水道課長（武内政喜君） 工業用水につきましては水道課のほうで説明をいたします。

現在、工業用水道の給水能力は日量1万6,000立米となっております。内訳としましては、江川ダム関係が1万5,000立米、地下水が1,000立米となっております。

現在の給水状況ですが、キリンビール福岡工場との契約水量が日量1万5,000立米となっておりますので、給水能力の大部分を占めております。このため工業用水道としては給水余力がほとんどない状況となっております。

また、市の工業用水道は女男石の沈渣池で砂を沈めるだけの簡単な処理しか行っておりませんので、実質的には河川水と同じであるため浄水処理施設が必要となります。このため、新たな企業の水源としましては、地下水等の自己水源、または上水道を利用させていただくこととなります。よろしく申し上げます。

○議長（浅尾静二君） 商工観光課長。

○商工観光課長（石井清治君） 県のかかわり、県の補助金等ということで御質問がございました。工業団地を造成する際に、今現在、直接的な県の補助というのはどこの自治体におきましても各自治体の中の一般財源等になってこようかと思えます。

ただ、今年度より県のほうが事前の工場適地を調査する費用について助成をするという制度が始まっております。ただ、ことし9月に施行されたということで、実際、今のところまだ事例はないということでございます。

参考としまして、朝倉市の企業誘致に係る工業団地造成の事例ということでございますが、平塚工業団地、先ほど言いますように平成5年に竣工をしております。鳥集院工業団地が平成16年度の竣工、林田工業団地が平成7年度に竣工しております。当時、当然合併前でございますものですから、それぞれの自治体の重点施策として行われていたものと認識をしておるところでございます。

以上です。

○議長（浅尾静二君） 8番今福勝義議員。

○8番（今福勝義君） それから先ほどの水の件でございますけど、工業用水道の給水料金と上水道の給水能力について教えていただきたいと思えます。

○議長（浅尾静二君） 水道課長。

○水道課長（武内政喜君） 工業用水の給水料金ですが、給水料金につきましては基本料金が1立米当たり23.756円となっております、これは税込みの金額です。

次に、上水道の給水能力ですが、持丸浄水場関係の上水道水源としましては、江川ダムに関係するものが日量7,000立米です。それから福岡県南広域水道企業団分、これは大山ダムに係る分です、これが2,100立米となっております。続きまして、杷木浄水場関係の上水道水源としましては、地下水がこれは井戸になりますが、日量2,300立米となっております。合わせて現在、日量1万1,400立米が上水道の給水能力となっております。よろしくお願いたします。

○議長（浅尾静二君） 8番今福勝義議員。

○8番（今福勝義君） それぞれの工業団地への進出状況はどのようになっていますでしょうか、現状を教えてくださいたいと思います。

○議長（浅尾静二君） 商工観光課長。

○商工観光課長（石井清治君） 現在、平塚工業団地並びに鳥集院につきましては企業の進出は全て埋まっておるところでございます。林田工業団地についてが1区画が残っており、市全体の工業団地としましてはほぼ埋まっておるところでございます。

以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 8番今福勝義議員。

○8番（今福勝義君） そしたら、団地としてはほとんどが埋まっているということになるわけですね。そうすると新たな工業団地の造成を考える時期ではないでしょうか。

それでは旧武田食品跡地の縦横の長さ、それから広さ、またこのくらいの規模の工業団地を1区画つくった場合、事業費はどのくらいになるのか、教えてくださいたいと思います。平塚工業団地の工事費をもとに教えてくださいたいと思います。

○議長（浅尾静二君） 商工観光課長。

○商工観光課長（石井清治君） 旧武田食品跡地の広さということでございますが、縦200メートル、横200メートルということで、おおむね4ヘクタールの広さでございます。

この程度の広さといいたいでしょうか、を実際どのくらいの費用がかかるかということで、議員が言われます平成5年にできました平塚工業団地の事業費を参考にとということでございますが、金額がひとり歩きしても困ります、あくまでも当時、これは実績という形の中でお知らせをしたいと思っております。平塚工業団地の部分が31.3ヘクタールございました。そして事業費の中では96億円という金額の中の事業で実績として上がっております。ですから、1ヘクタール当たり3億円というのは当時の単なる面積で打ち返した分でございます。そういうことから考えていただけたらわかるのではなかろうかと思っておりますが、単純にそれから二十数年たっております。果たしてこれが正当な金額というのには当てはまらないと思っておりますので、そこは御理解のほど、よろしく願いいたします。

○議長（浅尾静二君） 8番今福勝義議員。

○8番（今福勝義君） これからの雇用創出のための工業団地の造成について、商工観光課の考えをちょっとお伺いしたいと思います。

○議長（浅尾静二君） 商工観光課長。

○商工観光課長（石井清治君） 雇用創出のための工業団地の造成ということでございます。これはもとより一担当課長の中で云々言うことは当然できません。先ほど言いますように数十億円から数億円ということでもありますし、慎重に考えていかなければならないものと考えております。

リーマン・ショック以降、平成20年の9月以降になりますが、景気が徐々に回復をする

中で企業進出の引き合いが徐々にふえてきたことは事実でございます。ただ、現時点で紹介できる団地があれば当然よろしいんでしょうが、団地造成の意思決定を仮にしたとしても、過去の例から見ますと5年から7年を要すると思います。こういった場合、果たしてその7年、あるいは七、八年後に今の景気がこのままの状態で存続してるかというのも1つありまして、この分についてはなかなかこの場で云々ということができませんので、御理解方、よろしくお願いいたします。

まずは林田工業団地のA区画、7,700平米ほどございますが、私どもとしましては、この林田工業団地の企業誘致に向けて努力を傾注していきます。さらに民間適地の掘り起こしについても引き続き積極的に実施をしているところでございますので、御理解方、よろしくお願いいたします。

○議長（浅尾静二君） 8番今福勝義議員。

○8番（今福勝義君） 私は最近、海のカキを食べに糸島のほうに行ってみましたが、そこのカキ小屋、最初はビニールハウス風のカキ小屋が三、四軒で営業されていたそうです。今では8軒のカキ小屋が営業しており、平日でもお客様の姿が大変目についたところでございます。

また、カキ小屋の外を散歩していたら、20代ぐらいの若者の方2人が軽トラックにいっぱいカキを積んで運搬してある姿を見たところ、若者の方が生き生き仕事をしてあるように感じたところでございます。カキの養殖を始められて軌道に乗るまでは大変な苦労があったのではないかと思ったところです。ただ、人間はやっぱりお金もうけがあれば生き生きなるのではないかなと思ったところでございます。

私たちの朝倉市も水も豊富であり、3つ目のダムの建設が進み、自然豊かなところであると思っております。

また、市内には高速道路のインターが3カ所あり、企業から見た場合、魅力いっぱい町ではないかと思っているところでございます。

また、工業用地をつくる場合、企業が進出したくなるような用地をつくったらよいのではないかと考えております。例えば進入道路、それから面積、土地の格好とか、職員皆さんで知恵を出し合いながら事業を進めれば、よい結果が出るのではないかと考えているところでございます。

最近、流通基地も鳥栖、小郡、大刀洗とだんだん朝倉市のほうへ近寄ってきてるような感じがいたします。5年から7年先を見詰めながら先行投資するのもよいのではないかと思います。市長が言われる親と子と孫と一緒に暮らす朝倉市の実現に最適だと考えておるところでございます。市長のお考えをちょっとお聞きしたいと思っております。

○議長（浅尾静二君） 農林商工部長。

○農林商工部長（末次和幸君） ちょっと市長がお答えになる前に、仮に工業団地造成を計画しますと場所の選定から考えなければならないと思います。当然インターチェンジ等

が隣接してる等が。その際に農地の転用しなければなりません。そしたら農振法とか農地法の調整をしていかなければならなくなります。そして財源になりますと一般財源を充当することとなると思われますので、現時点ではちょっと厳しいのではないかというふうに思っております。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 今、部長のほうから今から工業団地を造成すると非常に難しい問題、そして年数の問題、それから景気の見通し、いわゆる造成して完了したときに、果たして我が国の景気がどうあるのか、それによって設備投資も変わってきますんで、そういったことのお話がありました。

現実問題として、我々のこの朝倉地域につきましては、先輩方の御努力もありまして大企業を含めて企業誘致がなされてきております。これは数字でお知らせしたかと思いますが、昼間人口と夜間人口を比べますと昼間人口のほうが105という形で多いという統計が出ております。ちゅうことは、この朝倉市に周辺の地域から昼間、働きにみえてる方が多いということです。そういった形で努力されておりますし。

1つ、最近特に思いますのは、私、市長になりまして企業誘致をいたしましたけれども、実際、これは前も申し上げたと思いますけれども、いわゆる正規の雇用というのが全体の雇用の割には少ないということです。このことは何を意味するかといいますと、若い人たちがこの地域において安定した生活というのがやっぱり非正規ではどうしても難しい。ひところみたいに、これは形として農家を、農業を営みながら、そして工場に勤めるという形態、これも今あるでしょうけども、そういったものがだんだん難しくなってきた。いわゆる農業というのは今の状況ですから、ちょっとなかなか農業で利益を、ましてやいわゆる兼業農家で、農業で利益を出すのは非常に厳しい時代になってきます。そうしますと、勢いいわゆる勤めてのサラリー、いわゆる給料で生活しなきゃならんとなってきますと、やっぱり非正規、正規の問題というのは非常に大きな問題です。

あわせて、これは今も実は商工観光課のほうで松崎マネジャー初めとして企業誘致にいろいろ取り組んでいただいております。非常に努力していただいております。そんな中で最近、企業のほうからの話が、人が大丈夫でしょうかという話が出てまいります。いわゆるそこで働く人たちの確保ができるのだろうか。よく考えてみますと、市内の工場にしましても、いわゆる外国人労働者、いわゆる非正規の単純労働のとは外国人労働者が来てるような、最近ふえてきたような事業所もございます。ですから、今度は人の問題から考えていく。むしろ私ども理想としては、企業誘致の理想といたしましては、企業を呼ぶことによって一緒に、それと企業と一緒に人がついてきてくれるという形が理想だと思うんですけど、なかなかまだ今そこまでいってないというのが現実です。

今、国のほうで本社機能を地方に移したら非常に優遇措置があるというような政策もとられておるので大いに期待したいところでありますけれども、現実問題としては

なかなかそこまでいってないという問題であります。

そういった中で、じゃあ工業団地を新たに造成することがどうなのかと。これ非常に難しい問題だろうと思います。先ほど言いましたように、工業団地を造成、結果的にするにしてもいわゆる時間がかかりますし、それに対する多額の経費も必要とします。平塚工業団地については、あれは県とやっていますんで、県が入ってくれたんであれだけの大きな団地造成ができたということ、そのこと。そして一番肝心なのは、造成した後に企業が来てくれるか、そのときに経済状況がどうなのかということも考えなきゃならんということで、今現在、私自身としては工業団地を造成するという考え方は今のところ持ってません。

ただ、やはり企業誘致は必要でありますので、先ほど課長が答弁申し上げましたように民間の適地、大分適地も少なくなったのも事実ですけれども、民間の適地を今からやっばり活用していく、まだありますんで、それを優先的に現在はやっていきたいというのが今の考え方です。

以上です。

○議長（浅尾静二君） 8番今福勝義議員。

○8番（今福勝義君） 最後に、私は今後の朝倉市にとって工業団地の新設が最善の策だと思っておりますので、市長には検討お願いして一般質問を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

○議長（浅尾静二君） 8番今福勝義議員の質問は終わりました。

10分間休憩いたします。

午後1時23分休憩